

北海道大学学部1年生を対象とした 授業課題に関する調査について

北海道大学高等教育推進機構
高等教育研修センターラーニングサポート部門
特定専門職員 立花 優



ラーニングサポート部門について

- 北海道大学では、2011年度(平成23年度)から**総合入試制度**(理系・文系の大括りの募集単位)を導入、**学生の多様なニーズに即した大幅な教育システムの改変を実施**
- 新システム下で学生への修学・学習支援体制を強化する目的で**アカデミック・サポートセンター設立(2010)**
- 高等教育研修センター **ラーニングサポート部門に改組(2015)**
通称「**ラーニングサポート室**」
進路選択支援・学習支援・データ分析の機能を担う



授業課題に関する調査 背景

- オンライン授業を受ける大学生の課題負担感の増大が全国的に話題に
- 本学でも課題の負担が重くつらいという相談が寄せられる
- 授業のオンライン化で、受講者以外が授業の様子を掴みにくくなった



授業課題に関する調査 概要

- 目的: 新入生が感じている授業課題の負担感の要因を探る
／教員・意思決定組織への速やかな情報提供
- 対象: 令和2年度北海道大学学部1年生(2645人)
- 方式: Googleフォーム(回答は北海道大学構成員に限定)
- 期間: 7月10日(金)~7月17日(金)
- 回答数: 1830(回答率69.2%)
- 質問項目数: 20問(自由記述回答含む)



授業課題に関する調査 概要

➤ 調査項目

- 授業時間を含めた1週間当たりの平均総学習時間
- 1週間当たりの課題・授業の種類・数
- 提出締切までの平均日数
- 種類ごとの課題にかかる時間
- 課題の提出状況
- 一番大変な／負担を感じる課題と、その理由
- ここまでの授業で一番面白かった、興味深かった授業
- 課題や授業についての教員とのコミュニケーション評価
- 日常的に相談できる相手／よく使うコミュニケーションツール
- 困っていること、ご意見ご要望



授業課題に関する調査

調査結果



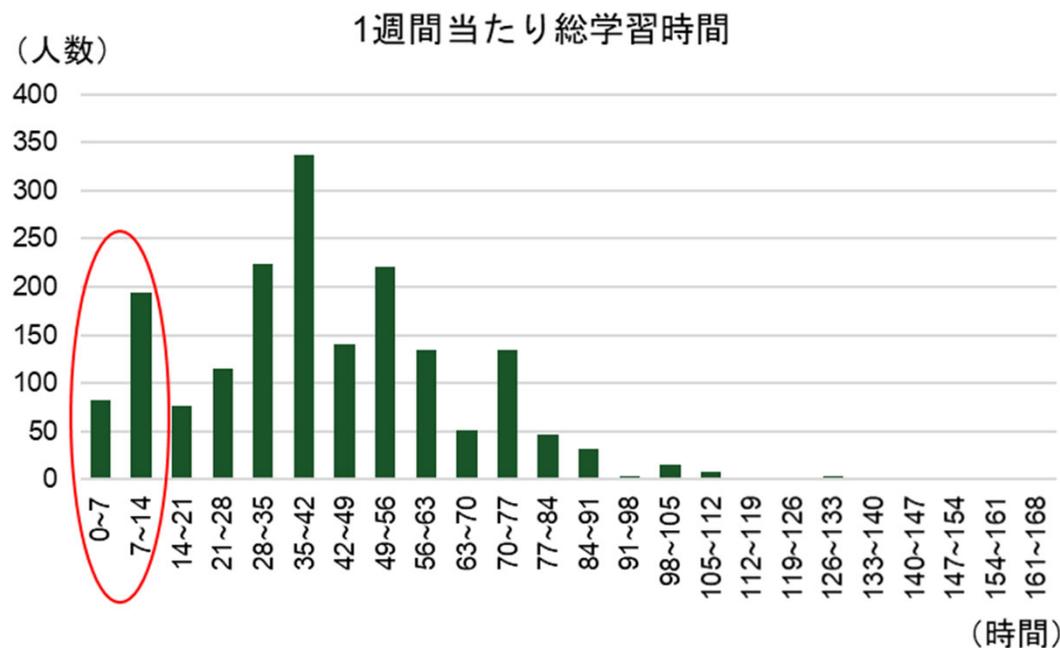
授業時間を含めた1週間当たりの 平均総学習時間

➤ 全体平均: **41.1時間**

※一昨年当時の1年生: **約29時間**

2年次アンケート(進級後の4月に1年次を振り返って回答)から推計
その差は**12.2時間**

ただし、
実験(理系必修科目)割当
のある総合入試理系
46.4時間
※土日含め毎日7時間弱
という計算



1週間当たりの課題・授業の種類・数

／課題の締切期間

➤ 授業の種類・数 文／理系で大差なし

1週間当たりの授業の種類・数

	理系	文系
オンライン型（zoom、WebExなど）	4.6	4.6
オンデマンド型（ビデオ）	4.2	3.7
オンデマンド型（PDF・スライド資料）	3.0	3.2
	11.8	11.4

➤ 課題の種類・数 理系が2つ程度多い

1週間当たりの課題の種類・数

	理系	文系
確認問題（問題を解くタイプの課題）	4.9	3.4
資料を読んで文章を作成するレポート	3.1	3.4
小テスト	2.7	2.1
	10.7	8.9

- 理系の約半数はさらに必修の実験追加

※自然科学実験・情報学Ⅰの課題を除く。

※「6つ以上」の回答は6として計算。

➤ 8割以上の学生が3～7日未満で課題を提出する必要

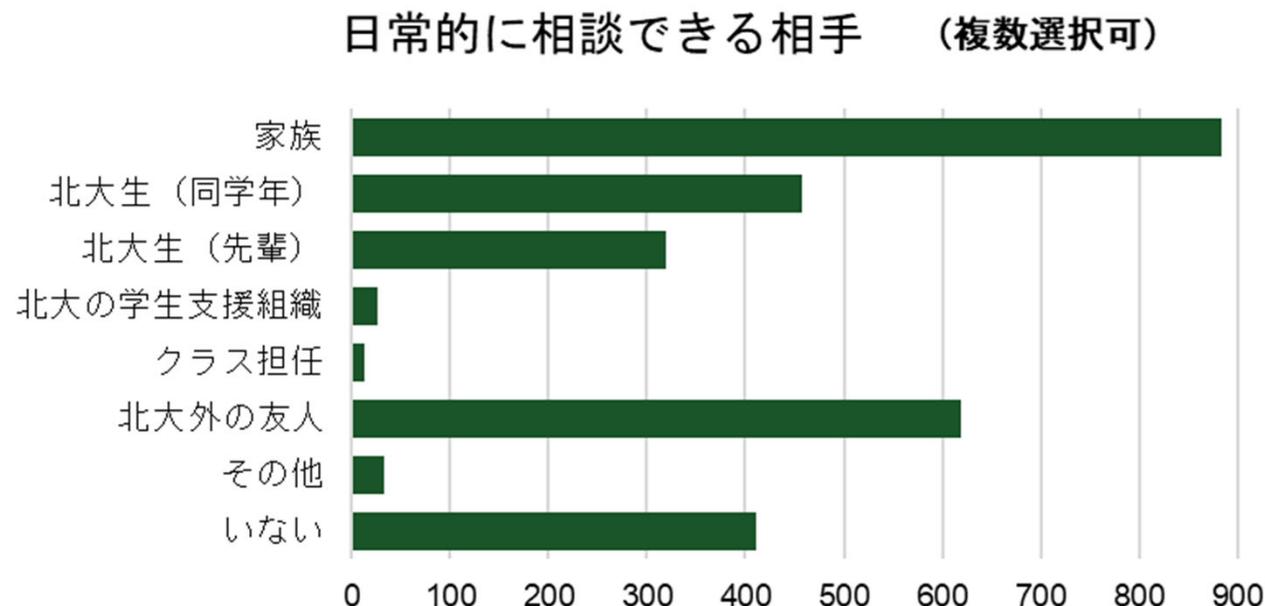
- 「課題に追われる毎日」
- 「どれか1つというより積み重ねで負担感が大きくなっている」との声もあり



日常的な相談相手

- 「家族」「北大外の友人」が上位：大学に所属している感覚希薄？
- 「北大生(同学年)」「北大生(先輩)」：直接面識のない交友？
- 「いない」も多数：孤立感を深めている

※北大新生は
2/3が道外出身者



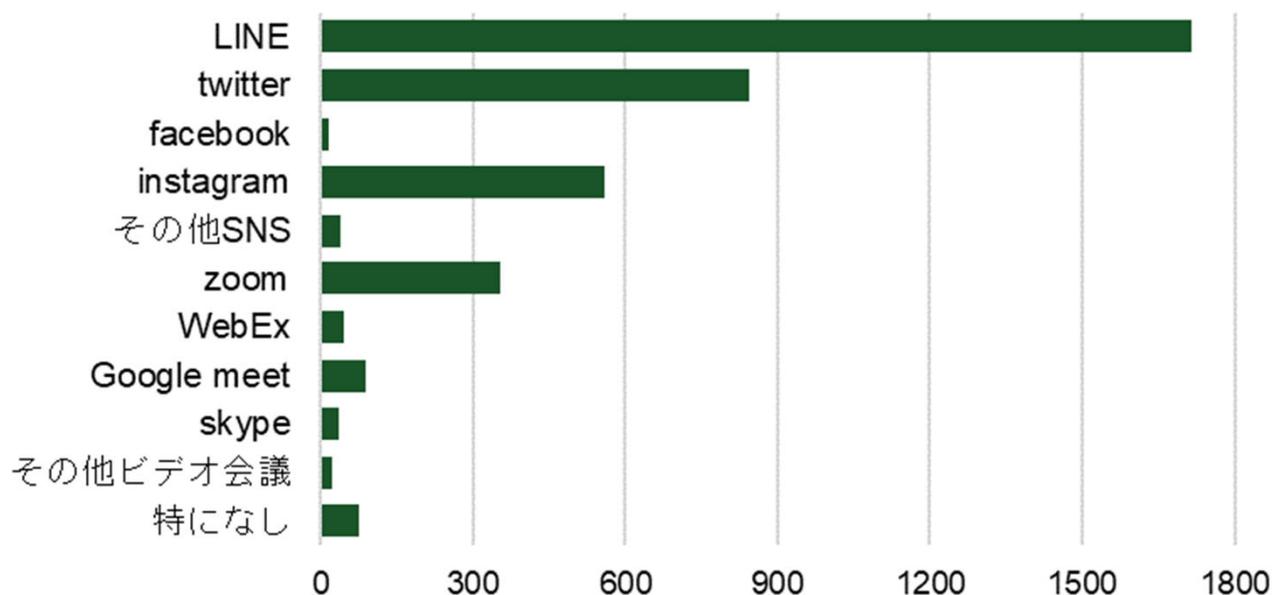
日頃利用するコミュニケーションツール

- 「LINE」「twitter」が上位
SNS上でクラスや授業ごとにグループが自然発生
大学の動向をいち早く掴もうとする「情報飢餓状態」

- 日常的な不安・
大学への不満の
はけ口に

↓
「SNS疲れ」を
窺わせる回答も

日頃よく使うコミュニケーションツール (複数選択可)



まとめと課題

➤ 総学習時間増加

学生の負担感をさらに増大させている要因

- 生活バランスの維持困難
- 常に締切に追われる感覚
- 課題の意義への理解不足
- 学生同士・学生教員間のコミュニケーション不足

課題1:この結果を2学期にどうフィードバックしていくか

課題2:定期的な観測体制の整備

